

常滑系招き猫（幸運の招き猫）

常滑は招き猫の名産地である。猫は一般的に三毛猫（白、黒、オレンジの模様）で、片方の前足を上げ、もう片方の前足に小判を握りしめるスタイルである。この前足を上げる仕草は、日本人が手招きをするときに使う、手のひらを下に向け、指を上下に動かす仕草を真似ている。左前足を上げた招き猫は人を呼び寄せるので、集客熱心な企業に特に人気がある。右前足を上げた招き猫は、幸運と富をもたらす。

招き猫の起源は定かではないが、かつて農民や商店主は、ネズミなどの害虫を食べてくれる猫を重宝していた。招き猫の置物が最初に登場したのは 19 世紀半ばと考えられているが、常滑市で生産が始まったのは 1930 年代後半のことだ。当時、伝統的な陶器産業が衰退していたため、地元の職人たちが新たなビジネスとして置物を作り始めたのだ。

1950 年までには、常滑市は日本の招き猫の主要生産地となり、ふっくらとした体に大きな目と耳が特徴的な招き猫が作られるようになった。現在では様々な色やデザインの招き猫があるが、最も人気があるのは三毛猫の置物である。招き猫は下記のような、常滑市の有名な観光名所にも影響が感じられる。

とこなめ招き猫通り

とこなめ招き猫通りは、招き猫をモダンにアレンジした 39 体の招き猫が並ぶ通りである。常滑にゆかりのある芸術家たちが制作した招き猫は、製作者によって異なる幸運を与える力が込められている。縁結び、無病息災、事業成就などである。

常滑駅と、常滑市で最も有名な招き猫「とこにゃん」、そして「やきもの散歩道」の入口である常滑市陶磁会館を結ぶ通りである。

常滑の見守り猫「とこにゃん」

招き猫通りの途中にある橋の上の堤防から顔を出す巨大な招き猫。電車で常滑を訪れる観光客は駅に到着した際、この招き猫を目にすることだろう。

「とこにゃん」という名前は、「とこなめ」の「とこ」と日本語で猫の鳴き声を表す「にゃん」を組み合わせたもの。2008 年の誕生以来、「とこにゃん」は常滑市のシンボルとして愛され、記念写真を撮る、人気な被写体となっている。

頭と左前足だけの構成だが、高さ 3.8 メートル、幅 6.3 メートルと日本最大級の招き猫であ

る。街を見守りながら、訪れる全ての人を歓迎してくれる。とこにゃん近くの堀沿いをよく探してみると、巨大招き猫のお供の小さな本物そっくりの猫の置物を11体見つけることができる。